

コロナ禍における横浜スタジアムでのプロ野球開催に伴う周辺の飲食店への経済効果

甲斐瑞稀

指導教員 居城琢

1. 研究の背景と目的

横浜スタジアムは2017年から座席数を増やすための改修工事を行い、2022年現在では約3万4000人を収容することが可能になっている。2012年にDeNAが球団買収を行い、様々な集客努力を重ねたことで集客数は年々増加し続け、2012年では1試合平均161,94人、2012年シーズン合計で1,165,933人だったが、2019年では1試合平均31,716人、2019年シーズン合計で2,283,524人まで増加した。しかしコロナウイルスの蔓延に伴い、無観客試合・観客制限が実施され、2020年では1試合平均9,171人、シーズン合計で467,700人、2021年シーズンでは1試合平均10,223人、シーズン合計で725,858人と観客数を大きく減少させた。飲食店も同様にコロナウイルスの影響で時短営業を強いられ、大きく売り上げを減少させた。横浜スタジアム周辺の飲食店も同様に、コロナウイルスが蔓延する以前では試合後の飲食店は多くのプロ野球ファンでにぎわっていたが、コロナウイルスによって試合後の客、特にナイターゲーム後に飲食店を利用するプロ野球ファンはほとんど見られなくなった。横浜スタジアム周辺の飲食店はプロ野球に依存している部分が大いと考えており、コロナウイルスが蔓延した2020年・2021年は甚大な影響を受けているのではないかと考えた。今回の研究では、満員の観客を動員し飲食店の制限がなかった2019年と、観客制限を実施し、飲

食店の時短要請があった2021年でプロ野球開催に伴う横浜スタジアム周辺の飲食店への経済効果をSNSでアンケートを実施して調査を行った。

2. アンケート調査

(1) アンケート調査概要

アンケート調査は、SNS（Facebook、Twitter）を用いて2021年の試合前・試合後に横浜スタジアム周辺の飲食店で利用した金額、2019年の試合前・試合後に横浜スタジアム周辺の飲食店で利用した金額、その他個人的属性について調査した。また、今回の調査において横浜スタジアム周辺とは、横浜中華街や伊勢左木町などのスタジアムから徒歩20分圏内のエリアに設定した。

(2) アンケート結果

試合前の利用金額は表1に示すとおりである。試合前の時間帯の飲食店は時短営業による影響を受けていないにもかかわらずコロナ前の2019年と比較して、2021年の消費金額は少なくなっている。試合前に周辺の飲食店を利用した人の割合について2019年は81.5%、2021年は67.6%であった。このことから、コロナウイルスの拡大によって、飲食店は営業している状況においても、飲食店を利用したいと考える人が少なくなっていることがわかる。試合後の利用金額は2019年と2021年での

差が 1,351 円であった。また、試合後に飲食店を利用した人の割合は、2019 年は 85.9%、2021 年は 41.2%であった。さらに 2019 年の 1 試合当たりの平均観客数は 31,176 人、2021 年の 1 試合当たりの平均観客数は 10,223 人であり、観客制限によって観客数は 3 分の 1 にまで落ち込んでいることも併せて考えると、スタジアム周辺の飲食店への影響はかなり大きいと考えられる。また、個人の属性は 20 代～50 代の男性が多いという結果になった。また、学生の割合が低く、会社員や公務員などの人の割合が高かった。主に Facebook でアンケート調査を実施し、Facebook の利用者が社会人男性に多いことが原因として考えられる。

試合前の利用金額	合計金額	平均金額
2019年	145,500円	1,582円
2021年	135,000円	1,324円

表 1 試合前の消費金額

試合後の利用金額	合計金額	平均金額
2019年	265,000円	2,880円
2021年	156,000円	1,529円

表 2 試合後の消費金額

性別	回答数	構成割合
男	73	71.6%
女	29	28.4%

表 3 男女の構成

年齢	回答数	構成割合
10代	1	1.0%
20代	25	24.5%
30代	28	27.5%
40代	25	24.5%
50代	16	15.7%
60代	6	5.9%
70代	1	1.0%
合計	102	

表 4 年齢の構成

職業	回答数	構成割合
学生	6	5.9%
主婦	15	14.7%
会社員	56	54.9%
公務員	8	7.8%
自営業	11	10.8%
その他	6	5.9%
合計	102	

表 5 職業の構成

(3) コロナウイルスの感染状況と消費金額の関連性

表 6 は月別のスタジアム周辺の飲食店の平均消費金額である。飲食店がコロナウイルスによる影響をより強く受けるのは表 1、表 2 から試合後であることがわかるため、試合後の平均消費金額とコロナウイルスの感染状況についてみていくこととする。月別の消費金額において、3 月と 10 月の平均消費金額が高い。3 月はオープン戦が行われており、2021 年シーズンにおいて横浜スタジアムで開催されたオープン戦はすべてデイゲームであった。そのため、試合が終わ

った後でも飲食店は営業が可能であった。よって平均消費金額は高くなっているといえる。

次に、プロ野球が開催されていた時期におけるコロナウイルスに対する神奈川県への対応についてみていくと、3月から6月・10月はまん延防止等重点措置、9月は緊急事態宣言が発令されていた。またプロ野球開催全期間における飲食店の営業時間は20時までであった。プロ野球開催期間において唯一緊急事態宣言が発令されたのは9月であり、10月の平均消費金額が高くなっているのは、緊急事態宣言が解除され、国民の意識が消費に傾いたからだと考えられる。

	平均消費金額	回答人数
3月	2,317円	7
4月	1,478円	14
5月	1,210円	19
6月	1,333円	6
8・9月	1,368円	22
10月	2,770円	34

表6 月別の消費金額（試合後）

3. 経済効果の推計

(1) コロナ禍における経済効果

アンケート結果と2021年、2019年の横浜スタジアムの観客動員数から推計を行っていく。2021年の横浜スタジアムの1試合当たりの平均の観客数は10.223人、シーズン合計の観客数は725.858人だった。

2021年の試合前平均消費金額は1,324円、試合後平均消費金額は1,529円だったことから、

一試合当たりの需要増加額は

$$(1,324 + 1,529) \times 10,223 = 29,156,219$$

となり、シーズン合計で見ると

$$29,156,219 \times 71 = 2,070,801,549 \text{ (20億7080万1549円) となる。}$$

この金額と平成27年横浜市産業連関表から経済波及効果を推計すると、第一次波及効果は2億9500万円、第二次波及効果は1億5500万円、経済波及効果は17億7600万円となる。よってコロナ禍における横浜DeNAベイスターズが横浜市の飲食店にもたらす経済効果は17億7600万円である。

(2) 仮に2021年コロナウイルスが蔓延しておらず、飲食店も通常営業を行っていた場合

まず、2021年に満員の観客を収容できた場合の一試合当たりの平均観客数、1シーズン合計の観客数を2019年シーズンを基準にして推定していく。

横浜スタジアムでは2017年から改修工事を実施しており、2021年時点では、34,046人収容可能となった。また、2019年の座席稼働率は98.7%であったため、2021年の1試合当たりの観客数は $34,046 \times 0.987 = 33,603$ 人である。シーズン合計の観客数は $33,603 \times 71 = 2,385,813$ 人となる。

2019年の試合前の平均消費金額は1,582円、試合後の平均金額は2,880円であったことから、1試合当たりの需要増加額は

$$(1,582 + 2,880) \times 33,603 = 149,936,586$$

であり、シーズン合計でみると

$$149,936,586 \times 72 = 10,795,434,192$$

(107億9543万4192円) となる。

先ほどと同様に平成27年度横浜市産業連関表から経済波及効果を推計する。第一次波及効果は15億3800万円、第二次波及効果は8億1000万円、経済波及効果は92億

6000万円となる。よって2021年にコロナウイルスによる影響を受けなかった場合、**横浜 DeNA ベイスターズが横浜市の飲食店にもたらす経済効果は92億6000万円である。**この数値と2021年の実際の経済効果の金額を引くと、92億6000万-17億7600万=74億8400万であるため、**2021年のプロ野球開催による横浜スタジアム周辺の飲食店の経済損失は74億8400万円となる。**

- ・日本野球機構公式サイト
(<https://npb.jp>)
- ・横浜 DeNA ベイスターズ公式サイト
(<https://sp.baystars.co.jp>)

4. 参考文献

・横浜 DeNA ベイスターズが横浜スタジアム周辺の飲食店にもたらす経済効果について

丸澤慧太 居城琢 (2019)

(https://ynu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=10461&file_id=20&file_no=1)

・プロ野球観戦者がもたらす関連産業への来客と経済効果の研究－福岡ソフトバンクホークスを事例として－

八尋和郎 外井哲志 梶田佳孝 (2011)

(<https://doi.org/10.11361/journalcpj.46.37>)

・高校野球神奈川大会が横浜市に与える経済効果 大川智己 居城琢 (2019)

(https://ynu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=10462&file_id=20&file_no=1)

・スポーツイベントが開催地域にもたらす効果：先行研究の検討

山口志郎 押見大地 福原崇之 (2018)

(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpeh/ss/advpub/0/advpub_17065/_pdf/-char/ja)